

# 地蔵盆 江戸の悲劇しのぶ

みやま市の  
延命地蔵尊 豪雨犠牲者も供養

みやま市瀬高町小田の矢部川沿いにある延命地蔵尊で24日、江戸時代に水難を防ぐために命を投じた村の女兒の遺徳をしのぶ地蔵盆の供養祭が開かれた。地域住民約20人が参列。女兒とともに九州豪雨の犠牲者の冥福を祈った。

延命地蔵は1834(天保5)年の建立で、台座を含めて高さ約3.5メートル。柳川藩士の田尻惣馬が河川工事の指揮を執り、「ハネ」と呼ばれる構造物をつ造った。工事が難航したこと、から、しきたりに従い村の女兒(お染め)が犠牲になったと伝わる。

地蔵像は西日本大水害(1953年)で矢部川がはらんした際には、首まで水に漬かり、2012年の

水害でも台座から倒れた。同12月、地域住民でつくる世話人会(坂田光広代表)が地蔵像を再建、隣に由来の説明看板を設置した。

供養祭では林鐘院(筑後市北長田)の三宅明信住職が地蔵像前で読経し、参列者は手を合わせた。坂田代表は「矢部川とともに暮らしてきた地域の伝統をこれからも大事にしていきたい」と話していた。

(床波昌雄)



矢部川のほとりにある延命地蔵尊像前であった供養祭

川  
生きたる

筑後

久留米:

0942

FAX

kurume@  
nishinipp

大牟田:

094

FAX

omuta@  
nishinipp

柳川支局